

第3・4学年 外国語活動指導案

令和元年9月19日（木）

隠岐の島町立北小学校

授業者 T1 西山 夏紀

T2 ダンケン

1. 単元名 What's this? (「Let's Try!1」 Unit8)

2. 単元の目標

- ・相手に伝わるように工夫しながら、クイズを出したり答えたりしようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

- ・外来語とそれが由来する英語の違いに気付く。

【言語や文化に関する気付き】

○語彙・表現

ねらいとなる表現：What's this? Hint, please. It's (a fruit). That's right.

語彙：it hint 動物 (dog cat) 食べ物 など

3. 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
相手に伝わるように工夫しながら、クイズを出したり答えたりしようとしている。	身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	日本語と英語の違いに気付いている。

4. 単元について

(1) 教材について

本単元では、「What's this?」「Hint, please.」「It's～」などの表現を使って、目の前の物が何かを尋ねたり答えたりする内容である。身の回りの物の言い方に慣れ親しみ、相手に伝わるようにクイズやヒントを出したり答えたりしていく。

1学期の学習では、「How many?」の単元で数を数える学習を行った。その際、5・6年生と合同学習を行い、5・6年生が考えた「How many?クイズ」に楽しく取り組み、様々な物の数を数えた。そこで、本単元では、「How many?クイズ」のお礼として、5・6年生に楽しんでもらえる「What's this?クイズ」大会を単元のゴールに設定した。5・6年生に楽しんでもらうためには、答えやクイズの形式をどのようにすればよいか目的意識をもって取り組むことができると考える。また、クイズ大会本番では、

相手に自分の考えたクイズを伝えたいというコミュニケーションへの意欲も高め、楽しさを体感させたい。

(2) 児童について

〈個人情報保護のため省略〉

(3) 指導について

本単元では、様々なクイズを通して、「What's this?」「It's ~.」「Hint, please.」などの表現に慣れ親しみ、5・6年生に楽しんでもらう「What's this?クイズ」大会を行うことで、コミュニケーションを楽しむことができるようにしていきたい。

第1時では、What's this?クイズを通して、様々な身の回りの物の表現にふれる。野菜や果物、動物などを表す英語表現をしり、普段使っている外来語の日本語と英語の違いに気付かせたい。また、クイズの楽しさを体感させることで、自分たちもクイズを考えたいという意欲を高め、目的意識をもたせたい。

本時は本単元の2時間目で、身の回りの物の言い方や、それらの物を尋ねたり答えたりする表現に慣れていく時間である。様々なクイズを通して「What's this?」「It's ~.」の表現を繰り返し使うことで、英語に慣れ親しむことができるようにしたい。また、様々なクイズ形態を紹介することで、児童が5・6年生のためにクイズを考える際の参考にできるようにしたい。

まずは、T1が児童全体とやり取りをしながら、スライドクイズをする。児童が答えを発言していき、日本語で答えたものは、ALTに英語表現を教えてもらい、確認していく。次に、ブラックボックスクイズを行う。最初に、ALTが解答者となり、「Hint, please.」と児童にヒントを求める。児童は、色や食べ物、動物など自分たちでヒントを考え、ALTにわかってもらえるようにヒントを出していく。自分たちのヒントでわかってもらえる楽しさを感じることで、クイズへの興味も高まり、より主体的に活動に取り組むことが期待できる。そして、やり方が理解できたところで、児童も解答者となり、クイズに取り組む。全体で英語表現に慣れ親しんだ後に、3つのグループに分かれてシルエットクイズを行う。出題者と回答者を交代しながら行い、全体の場では、使った表現をグループの中で使えるようにしていきたい。

第3時では、5・6年生に出すクイズを考え、自分たちでクイズを出し合い、練習をしていく。5・6年生に楽しんでもらうために、5・6年生の好きな物や思い出の物を答えにしたり、ヒントをどうするか考えたり、相手のことを考えてクイズを作っていきたい。

第4時は、クイズ大会である。相手意識をもって、はっきり話したりヒントを出したりしていく。ただクイズを出すのではなく、どのような思いを込めてクイズを考えたいか伝えられるようにしていきたい。

学習の最初には、単元の目標となる5・6年生とのクイズ大会を知らせ、様々なクイズ形態を通して、より具体的に目指すゴールのイメージをもたせ、やってみたいという

意欲を高めていきたい。また、くりかえし英語表現を使う場を設定し、児童が自信をもってコミュニケーションが図れるようにしたい。

5. 単元指導計画と評価計画（全4時間）

時	ねらい（◎）と学習活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準
第1時	◎身の回りの物の日本語と英語の違いに気づく。「身の回りの物の言い方を知ろう」 ・ALT タイム ・What's this?クイズ			○	日本語と英語の違いに気づいている。 (行動観察・振り返りカード)
第2時 (本時)	◎身の回りの物の言い方や何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 「What's this? クイズをやってみよう」 ・ALT&HRT タイム ・スライドクイズ ・ブラックボックスクイズ ・シルエットクイズ		○		身の回りの物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。(行動観察・振り返りカード)
第3時	◎クイズを考え、クイズを出したり答えたりしようとする。 「What's this? クイズを考え、友だちにクイズを出してみよう。」 ・英語すごろく ・What's this?クイズ練習	○			何かを尋ねたりヒントを出したりし、身の回りの物を答えようとしている。(行動観察・振り返りカード)
第4時	◎相手に伝わるようにヒントを出しながら、クイズを出そうとする。 「5・6年生に What's this? クイズを出そう。」 ・What's this? クイズ大会	○			5・6年生にヒントを出しながらクイズを出そうとしている。(行動観察・振り返りカード)

6. 本時の活動

(1) 本時のねらい

身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

(外国語への慣れ親しみ)

(2) 展開

時	学習活動	教師の支援		○評価〈方法〉 ・教材
		HRT	ALT	
2分 8	Warming up 1. あいさつ	あいさつをする。 Hello.	あいさつをする。 Hello, everyone. How are you?	

	2. Let's sing. 「Hello song」を歌う。 Main activities 3. めあてを確認する。 What's this? クイズをやってみよう。	歌の復習、練習をしてから歌う。 本時の流れとめあてを知らせる。 前時を振り返る。		
5			クイズの答えを言う。	
15	4. ALT&HRT タイム ○スライドクイズ ・HRT のクイズに挑戦する。 ○ブラックボックスクイズ ・ALT が挑戦するクイズにヒントを出す。 ・友だち同士で挑戦する。 What's this? Hint, please. It's (a fruit). It's (green). It's a melon.	わからない表現は ALT に質問するよう促す。 児童にヒントを出してあげるよう促す。 ヒントの出し方、答え方を示す。 児童の中から回答者をしてもらう。	わかりにくいものについては、練習する。 ブラックボックスクイズに答える。 Hint, please. It's ~. 児童が出すヒントの手助けをする。	・絵カード ・封筒 ・ブラックボックス ・絵カードの物
10	That's right. 5. シルエットクイズ ・全体で挑戦する。 ・グループでクイズを出し合う。			
5	Looking back 6. 振り返り ・振り返りカードに記入する。	デモンストレーションをする 尋ね方、答え方の表現を確認する。 次回の活動を伝える。	尋ね方、答え方の練習をする。 よかったところを褒める。	・絵カード ・封筒 ○身の回りの物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。(行動観察・振り返りカード) ・振り返りカード

(3) 本時の評価

十分に満足できる姿	おおむね満足できる姿	支援が必要な児童への手立て
クイズを通して身の回りの物の言い方や、ある物が何かを繰り返し尋ねたり答えたりしている。	クイズを通して身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりしている。	教師や他の児童が表現していることを繰り返し聞き取らせ、少しでも真似ができるようにする。